

国際畜犬学連盟 (FCI) (AISBL)

Place Albert 1er, 13, B - 6530 Thuin (ベルギー)、電話: +32.71.59.12.38、ファックス: +32.71.59.22.29、インターネット: <http://www.fci.be>

犬の毛色の標準化された命名法

ベルナール・デニス

翻訳 : ジェニファー・マルホランド

犬の毛色の用語を標準化する必要性は、長い間感じられてきました。犬種によって、同じ言葉が異なる色を指したり、逆に同じ毛色にまったく異なる説明が与えられたりすることがあるのは事実です。さらに、従来の命名法では、基本的な毛色の正確な性質を考慮せずに、意図的に想像上の用語を使用して色を説明することがよくあります。この作業は、標準化の目的に応じています。強制したり、習慣を変えたりする野心はありませんが、ブリーダーにその重要性を理解してもらうことを目的としています。

参考図書は、ロイヤルカナンが発行する「犬の毛色」です。本書は説明セクションの要約で、毛色を分類するための同等の表現がいくつか追加されており、この命名法がいかに使いやすく、適応しやすいかを示しています。色合いのバリエーションに関する用語は示されておらず、自由に選択できます。

毛色は色素、つまりメラニンの存在によるもので、次の2つの形式で存在することを覚えておいてください: - ユーメラニンまたは濃い色素、黒または茶色

(「真の茶色」という意味) - フェオメラニンまたは淡い色素、黄褐色。

色素がない場合は白色になります。

コートはソリッド、ミックス、モディファイドに分類されます。

ソリッドコート

毛皮には色素が1種類しか含まれておらず、濃い色、薄い色、またはまったく含まれていない色があります。そのため、毛皮の種類は濃い色、薄い色、または白の3つに分けられます。

ダークコート

ユーメラニンを含む髪を持つ人: 色素がない場合は黒または茶色です
薄めれば青やベージュになります。

黒いコートは問題ありません。

茶色 (またはチョコレートブラウン) の毛皮は、より濃い色やより濃い色など、さまざまな色合いがあります。
暗さは少なくなります。鼻の皮膚は常に茶色です。虹彩はより淡い色になる傾向があります。

青色（黒の希釈）の毛皮は、黒色顔料を希釈することによって得られます。鼻は青色です。動物は生まれたときは青色です。色合いのバリエーションが可能です。

ベージュの毛皮は茶色を薄めて作られます。色合いはさまざまです。鼻の皮はベージュです。虹彩は淡色で、時には猛禽類と同じ色になることもあります。

淡い毛色 フェ

オメラニンによって色づいています。色素が正常であれば黄褐色で、薄めると砂色になります。フォーンとサンドの毛色には、非常に多様な色合いがあります。

フォーンの毛色はオレンジからマホガニーレッドまで様々です。鼻の色は通常、黒、茶色、フォーン（赤みがかって見える）です。体の末端や四肢の色は、しばしばより淡い色をしています。その色が「フォーンのマントをした砂色」（秋田犬を参照）に似ているほど際立っている場合は、「フォーン、末端が非常に淡い」と正確に表現される可能性があります。

砂色の毛皮は淡黄褐色からできており、クリーム色から白っぽい色まで様々である。色。淡い黄褐色と砂色の境界を客観的に判断することは不可能です。最も色白の被写体ではほぼ白色になるほど、色合いには大きなばらつきがあります。鼻革は常に着色されており、通常色から薄めの色まで、さまざまな色があります。

白い毛皮 毛に

は色素がありません。鼻革の色は、部分的な（「蝶」）または完全な脱色（肌色）を含め、あらゆる色が可能です。

ミックスコート

混合毛皮には、濃い色と薄い色の 2 つの色素が含まれており、白はまったくありません。したがって、混合毛皮は単色で二重色素です。ユーメラニンとフェオメラニンの分布状況によって、フォーンマスク、フォーンに黒のオーバーレイ、フォーンのブリンドル毛皮、フォーンの模様のある黒、フォーンのマントルのあるフォーンの 5 種類の毛皮を識別できます。各毛皮には一定数のバリエーションがあります。

マスクコートの子鹿（砂）は、多かれ少なかれ黒いマスクの子鹿（砂）です。顔全体に広がります。「マスク」のみの場合は、マスクが「黒」であることを意味します。それ以外の場合は、「茶色のマスク」、「青いマスク」...と記載します。鼻革はマスクと同じ色です。

犬に非常によく見られるマスクは、以下の 4 つの毛皮のいずれにも現れる可能性があることに注意してください。

黒いオーバーレイコートを持つフォーン（サンド）は、それ自体が 2 色の毛（「ゾーン」、「バンド」または「アグーチ」とも呼ばれる）の存在が特徴です。暗い色素の量はかなり変化するため、黒いオーバーレイを持つフォーンは、ほぼフォーンから黒っぽい色、そしてすべての中間色まで、非常に多様な表現型表現になります。したがって、オーバーレイの程度（少なくとも、わずかな中程度、重い）を明記する必要があります。ただし、この明確さが欠けている場合は、「中程度のオーバーレイ」の同義語と見なすことができます。すべての毛にオーバーレイがある場合は、以下を参照してください。

「オーバーレイ」のみは黒色であることを示します。それ以外の場合は、「青」、「茶色」などと記載する必要があります。たとえば、「わずかに茶色のオーバーレイがある子鹿毛」というコートです。

この毛皮は頻繁にマスクされます：「オーバーレイのあるフォーン、マスク」。

最後に、黒いオーバーレイのある子鹿色の毛皮では、体の末端部分に強い明るさが見られることがあります。

完全なオーバーレイを持つフォーン（サンド）の特殊なケース。各毛は2色、つまり「アグーチ」です。「アグーチ」は毛皮全体を表すのに使用できます（「ブルーアグーチ」、「ブラウンアグーチ」など）。さらに、「ブルーサンドアグーチ」または「ブラウンフォーンアグーチ」と述べてフェオメラニンを表すこともできます。

実用的な観点から言えば、完全なオーバーレイを備えたフォーンコートは、「黒っぽい」「青っぽい」「茶色っぽい」などと呼ばれます。

フォーン（サンド）ブリンドルコートでは、ユーメラニンは「ブリンドリング」と呼ばれる横縞に凝縮されています。これらは多かれ少なかれ豊富で、非常に豊富な場合はほぼ黒になります。したがって、ブリンドリングの程度（少なくとも、わずか、中程度、重い）を説明する必要がありますが、この詳細が欠けている場合は、コートに「中程度のブリンドリング」があると考えられます。

これらの毛皮はマスクされていることが多いため、「フォーンブリンドル、マスク付き」と表記します。

「ブリンドル」だけでは「黒」を意味します。そうでない場合は「青」、「茶色」などと記載する必要があります。たとえば、「濃い青の縞模様の砂色の毛皮、マスク付き」などです。

黒地に黄褐色（砂色）の模様とそのバリエーションは、伝統的な命名法で見られる「ブラック・アンド・タン」に相当します。黄褐色の模様は四肢に見られます。バリエーションは、黒色が青、茶色、またはベージュ色に置き換わることによって最初に生じます。

また、子鹿の模様が完全なオーバーレイ（アグーチ）のあるベースコートに見られることもあり、別のバリエーション、「オーバーレイのある子鹿 + 子鹿の模様」（意味：「完全なオーバーレイ」）が生まれます。完全なオーバーレイのある子鹿ではなく「アグーチ」と表記します。たとえば、「子鹿の模様のあるアグーチ」、「砂色の模様のある茶色のアグーチ」などです。

マントルコートとそのバリエーションを持つフォーン（サンド）の場合、ユーメラニンは前の例よりも侵襲性が低いか、またははるかに少なく、時にはサドルのみに縮小されます。バリエーションは、黒が青、茶色、またはベージュに置き換えられることによって最初に発生します。

また、外套の毛が縞模様になっていることもあり、その場合は「黒いオーバーレイ外套を持つ子鹿」（「完全なオーバーレイ」を意味する）またはさらに良いことに「アグーチ外套を持つ子鹿」と表現できます。

マントルの範囲の説明を追加することもできます。例：「子鹿
「小さな外套膜を持つ」、「広範囲の茶色のアグーチ外套膜を持つ砂」...

改良コート

基本的なコートは今でも識別できますが、変更が加えられ、外観が変更されました。灰色化、まだら模様、斑点模様の3つの手順が保持されています。

灰色化：毛皮が灰色になる

生後数週間は毛皮は正常ですが、その後は程度の差はありますが白っぽい毛が出現します。

すべての毛は灰色になることがあります。説明は古典的な「灰色」で、これは黒と白の毛が混ざった状態です（動物は生まれたときは黒です）。灰色がかったベージュ（茶色と白が混ざった状態）や赤毛（子鹿色と白が混ざった状態）も含まれます。

それ以外の場合は、ベースコートを残し、コンマの後に「灰色化」と続けることをお勧めします。たとえば、「灰色のマントルを持つ鹿毛、灰色化」とします（「灰色のマントルを持つ赤毛のローン」ではなく）。

白髪化の程度を「黒が少し白髪化している」、「アグーチが中程度に白髪化している」などと表現することも可能です。

斑点 :まだら模様の毛皮 黒い色

素（ユーメラニン）のみが関係します。

地色が薄くなったり（薄くなったり、灰色になったり、あるいはその両方）、色素が欠如したりしますが、通常の色は、不均一に分布したざらざらした（引き裂かれた）斑点の形で維持されます。

薄めた地色から始まる典型的な説明は、「黒のまだら模様の灰青色」（単に「ブルー マール」）、「茶色のまだら模様のベージュ色に、黄褐色の模様」（論理的には、「まだら模様のベージュ色に黄褐色の模様」で十分）、「黒のまだら模様の白色」などです。

別の論理では、基本的な毛皮を説明し、その後にコンマの後に「まだら模様」と続けることも可能です。たとえば、「黒地に黄褐色の斑点、まだら模様」、「砂地に茶色のマントル、まだら模様」などです。混乱は避けなければなりません。この別の論理では、古典的な表現「ブルー マール」が「黒、まだら模様」になります。コンマの存在は重要です。

斑点 :斑点のある毛皮 「斑点」

は「白い斑点」の同義語になっています。斑点は限定的、中程度、または侵入的になります。基本色を特定し（耳の色のついた模様）にまで縮小されていてもかまいません）、次に「限定的斑点」、「中程度の斑点」または「侵入的斑点」を追加します。たとえば、「黒にフォーンの模様、限定的斑点あり」、「砂色、オーバーレイ、中程度の斑点あり」、「フォーンのブリンドル、侵入的斑点あり」などです。

カテゴリの数を増やしたり、コートを別の方法で説明したりすることも可能です。たとえば、次のようになります。

- 淡黄褐色、わずかに白いマーキングあり - 淡

黄褐色のマーキングがある黒、白いマーキングあり（「淡黄褐色と白いマーキングがある黒」に変換されます）、- オーバーレイ、マスク、白がある砂色、- 侵入

性の白がある淡黄褐色のブリンドル、- オーバーレイ

がある淡黄褐色、非常に侵入性の白。好みに応

じて、「オーバーレイがある淡黄褐色のマーキングがある白」とすることもできます。

特別な特徴を持つ斑点模様のコート

白い部分は、斑点状（小さな色の点）、混合（白と黒の混合）になることがあります。

毛が白く残る、または毛が着色する（皮膚に小さな色の斑点がある）か、または毛がまだらになる（毛は白のまま）。

特殊性の強さは、例えば、「黄褐色で、わずかに白い斑点がある」、「黄褐色の模様のある黒に、濃い白い斑点が入り混じっている」、「茶色と白が混ざっている」、「黄褐色に重なりがあり、濃い白い斑点がある」などと表現することができます。

注意: 修正コートの場合、最も重要なことは、コート全体を説明する用語を詳しく説明する前に、ベースコート (小さな色の点に縮小されている場合でも) を常に特定することです。特定の用語がコート全体を説明するために認識されている場合を除き、修正は常にコンマの後に置く必要があります (「ベースコート、修正」)。

結論

標準化された命名法は論理的かつ正確で普遍的で、
不器用だが美しさは、必ずしも精密さや普遍性と両立するわけではない。

従来の用語が現在使用されているもののままであったとしても、標準化された命名法を理解し、同等のものを確立する方法を知ることは、ブリーダーにとって非常に有益です。

この概要は、2009 年 7 月にウィーンで開催された FCI 総会の会議で承認されました。